

「被災後1年の進捗と復旧の方針」

熊本城調査研究センター 網田龍生

1 経過・進捗

4月14日 21時26分 前震発生 すぐに職員参集、城内には警備員常駐 百間石垣崩壊：道路閉鎖（車のみ）、城内を巡検（大余震のたびに）、 二の丸広場ほか：避難所、電気・水道使用可	
4月15日 有料域は閉園、二の丸広場・駐車場は避難所として開放 被害状況調査 → 関係各所に報告、マスコミ対応が始まる	
4月16日 1時25分 本震発生 職員参集 → 被害・避難者確認 → 道路閉鎖 → 城内閉鎖 水道使用不可、電気一部不可、職場（古京町別館）完全閉鎖 避難者を二の丸広場に集約、余震が激しく被害調査も難航 無断侵入者に苦慮（バリケード・張り紙・指示を無視） 市民会館楽屋に仮執務室（電気・水道・電話・Cネット確保）16・18日	
4月17日 熊本城被害の記者発表 → 1日中マスコミ問合せに追われる（2ヶ月続く）	
4月22日 文化庁・国交省視察（以後視察ラッシュ続く）	
5月GW 被害詳細調査、現況記録作成（写真・測量等）、緊急工事準備を始める	
5月11日 危険区域内マスコミ公開 →→→ 情報は公平に提供（広報に投げ込み）	
5月後半 緊急工事着手 ①道路や民地に崩落した石材の撤去 ②建物の倒壊防止 ③地盤亀裂箇所の雨水対策 ④工事車両の通路確保	
6月10日 被害調査結果を公表	
7月26日 市長「復旧の基本的な考え方：5項目」を発表	
7月末 飯田丸五階櫓・南大手門倒壊防止緊急措置、百間石垣など石材回収	
8月1日 市道開通	
10月 被災6ヶ月：被害再点検・・・大きな変化なし	
11月1日 「復興城主」制度創設・・・全国から多大な支援	
12月26日 「復旧基本方針」策定	
28° 緊急工事	
崩落石垣の撤去・保管・ 崩落防止	百間石垣、宮内橋下、埋門前、南大手門下、東十八間櫓下、北十八間櫓下、加藤神社境内、 頬当御門周辺、櫓方門周辺、県立美術館南、旧国税局石垣、国立病院石垣、第一高校正門前
石垣の崩落防止	加藤神社北、古京町別館裏

崩落建造物の撤去・保管	東十八間櫓、北十八間櫓、長堀
崩壊建造物の保護	宇土櫓続櫓、不開門、五間櫓、細川刑部邸
建造物の崩落防止	飯田丸五階櫓、南大手門、七間櫓・田子櫓
地割れ・陥没の保護	天守広場など各所
園路舗装	県立美術館南、行幸坂
復旧工事着手	天守閣、天守仮設スロープ
被害詳細調査	石垣、天守閣、本丸御殿、細川刑部邸
測量、地盤調査、撮影	城内各所
その他	二の丸ステージ、危険木伐採、二の丸漏水、慶宅坂陥没、二の丸休憩施設 など

2 広報・活用

28° 報道公開

4. 17	熊本城の被害報告（市役所にて会見）	8. 1	市道開通（百間石垣応急工事の終了）
5. 11	危険区域内を初公開	9. 21	頼当御門周辺工事、建築部材保管庫を公開
5. 25	百間石垣の応急工事・発掘調査着手	10. 12	定期公開（本丸御殿・大天守入口内部の公開）
6. 7	東十八間櫓下石垣（民間駐車場）の崩落石撤去	11. 1	明治 22 年震災記録記者発表
6. 16	飯田丸五階櫓崩落防止工事着手	11. 4	天守内部映像を公開
7. 12	宮内橋横石垣から人形の彫刻を発見	11. 18	宇土櫓内部映像を公開
7. 21	飯田丸五階櫓崩落防止工事進捗状況	12. 2	定期公開（加藤神社・頼当門・大イチョウ）
7. 26	市長会見「熊本城復旧の基本的な考え方」を発表	1. 24	定期公開（櫓方門・長堀・頼当門・スロープ・七間櫓・天守前広場）
7. 28	定期公開（危険区域内を再公開）	3. 24	定期公開（天守前広場、スロープ、奉行丸、桜公開）

講演、講座、シンポジウム、寄稿、展示解説・・・百数回

マスコミ取材・出演、視察対応・案内・・・？回

3 復旧基本方針 平成 28 年 12 月 26 日策定・・・裏面

4 さまざまな意見

- ・天守復興の優先
- ・天守復旧の方法（バリアフリー化、木造復元）
- ・二の丸広場の活用
- ・公開、立入規制、寄付金 など

熊本城復旧基本方針＜概要＞

I はじめに

1 被害の状況等

- ・重要文化財建造物13棟全て、再建・復元建造物20棟全て、便益施設26棟
石垣約23,600㎡(全体の約3割)、地割れ約12,345㎡
- ・被害額約634億円 ※旧細川刑部邸別途約5億円、現時点での概算値

2 基本方針及び基本計画の策定

(1)基本方針の策定

復旧に向けた基本的な考え方や具体的に取り組むべき施策の方向性を定め、市民・県民・行政・関係機関等の共有のもと、熊本城復旧に一体的に継続して取り組むために策定

(2)基本計画の策定

基本方針に基づき、熊本城全体の復旧の手順や工法及び復旧過程の公開など具体的に取り組む施策を体系的に定め、熊本城の効率的・計画的な復旧と戦略的な公開・活用を着実に進めていくために策定(平成29年度までに策定)

＜①計画期間＞

概ね20年とし、主要施策を短期施策(概ね5年)・中期施策(概ね20年)として整理

＜②計画区域＞

特別史跡区域(51.2ha)及び都市計画公園区域(56.3ha)

＜③計画の位置づけ＞

「熊本市震災復興計画」を最上位計画、「特別史跡熊本城跡保存活用計画」を上位計画とし、本市の観光・中心市街地活性化等の関連諸計画等と連携

II 基本的な考え方(※平成28年7月26日公表済)

熊本城は、我が国有数の文化財であるとともに、国内外から年間170万人の観光客等が訪れる熊本のシンボルであり、本市のまちづくりに係る主要施策の展開、震災復興に欠かすことのできない中核を成すもの

市民・県民をはじめ多くの皆様の力を結集し、以下の5つの基本的な考え方に基づき100年先を見据えた復元整備への礎づくりとしての熊本城復旧に取り組む

- (1) 復興のシンボルである天守閣の早期復旧を目指す
- (2) 文化財的価値を損なわない丁寧な復旧を進める
- (3) 復旧過程の段階的公開を行い、観光資源としての早期再生を図る
- (4) 耐震化など安全対策に向けて最新技術も取り入れた復旧手法の検討を行う
- (5) “100年先の礎づくり”として未来の復元整備へ繋がる復旧を目指す

III 基本方針

● 基本方針1 被災した石垣・建造物等の保全

＜主要施策＞

- ① 崩落・倒壊した石垣・建造物等部材の回収・適切な保全
- ② 崩落・倒壊等の危険性の高い石垣・建造物等への緊急的防止措置
- ③ 被害実態の詳細把握及び復旧手法等への反映

● 基本方針2 復興のシンボル「天守閣」の早期復旧

＜主要施策＞

- ① 市民・県民の復興のシンボル「天守閣」の2019年を見据えた早期復旧
- ② 耐震化等による天守閣の安全性の向上
- ③ 天守閣のバリアフリー化及び内装・展示内容の刷新

● 基本方針3 石垣・建造物等の文化財的価値保全と計画的復旧

＜主要施策＞

- ① 石垣の復旧方針検討及び計画的復旧
- ② 宇土櫓など重要文化財建造物の計画的復旧
- ③ 工区や復旧過程の公開等を踏まえた石垣・建造物等の段階的復旧
- ④ 伝統技法等による丁寧な復旧及び効率的手法の検討

● 基本方針4 復旧過程の段階的公開と活用

＜主要施策＞

- ① 天守閣エリアの早期公開と本丸御殿大広間等の復旧
- ② 竹の丸エリアの公開と長堀及び飯田丸五階櫓等の復旧
- ③ 公開エリアの順次拡大と復旧過程の観光及び教育等資源としての活用
- ④ 都市公園施設としての復旧・調和

● 基本方針5 最新技術も活用した安全対策の検討

＜主要施策＞

- ① 文化財的価値の保全を踏まえた石垣・建造物等の耐震化等の検討
- ② 耐震化等安全対策に係る最新技術・現代工法の検討
- ③ 将来の災害に備えた熊本城全体の安全・防災対策等の検討

● 基本方針6 100年先を見据えた復元への礎づくり

＜主要施策＞

- ① 熊本城調査研究の更なる推進
- ② 将来にわたる継続的な復旧を支える人づくり
- ③ 震災の記憶継承と幕末期など往時の姿への復元検討

● 基本方針7 基本計画の策定・推進

＜主要施策＞

- ① 関係行政機関・専門家・市民等の意見を踏まえた基本計画の策定
- ② 国県等の関係機関一体となった復旧の推進
- ③ 城主制度や瓦の活用等による継続的な市民等の参画による復旧